

# 稲垣雅彦写真展

THE Contact Sheet

Masahiko Inagaki Snaps



会場：ギャラリー イー・エム 西麻布  
会期：2016年10月18日（火）～ 11月5日（土）  
時間：12:00～18:00（日・月曜日休館）入場無料  
住所：東京都港区西麻布4-17-10  
電話：03-3407-5075

## 作品内容

25歳から30年近く、ライカをぶら下げて世界20カ国以上を放浪して写真を撮影してきた。その間にカメラはフィルムからデジタルに変わり、固定電話はスマートフォンに変わっていった。カメラを手にするようになってから、空を見上げ雲を眺めたり、木漏れ日の陽射しに目を向けたりすることが多くなった。

9.11の直後にNYに渡り、ニュー Yorkerの悲しさを身近に知る。3.11の直後は医療救援隊で現地入りしその光景に絶句した。その後イタリアを旅したときは異国の人たちがみんな日本を心配し、話しかけられ涙が止まらなかった。

そして異国の地から母国に想いを馳せて、自分がいかに日本を愛しているのか気が付くのだ。ハワイのヒロはハワイ州第一の商業の街として賑わっていたが1946年と1960年の2度の津波で壊滅的な被害を受け、その後災害から復興するも華やかな時代が取り戻されることはなかった。しかし、フクシマに比べると放射能の心配がなく、ひなびた美しい街並みを今に伝える。どこの国にも歴史があり習慣がある。また生まれ育った土地を愛する人たちと笑顔がある。その地の美味しい食があり、旨い酒がある。相手の国を知り、人と触れあい相手の立場に立つ。それこそが人類を平和に導く唯一の方法ではないだろうか。

写真は見える光、つまり可視光線（波長400～700nm）で起きる光化学反応を利用しているのだが、そこに写る風景は世界中で陽射しも陰も違う。現像液にバライタ紙を浸し浮かび上がってくる映像に、その地を訪れた時の、陽射しや風、匂い、そして食べ物や笑顔までもがフッと浮かび上がってくる。コンタクトシートに赤えんぴつで丸を付けるように、数万のショットの中から選び出した今回のスナップショットはいわゆる私の歩いてきた大切な旅の記憶の断片であり20カ国を巡る物語でもある。



写真家 稲垣雅彦